

国連兵力引き離し監視隊

United Nations Disengagement Observer Force (UNDOF)

《 概 要 》

2026年1月

- 1 設 立 年 月 1974年5月
- 2 設 立 決 議 安保理決議第350号(1974年)
- 3 展 開 場 所 ゴラン高原(シリア、イスラエル)
- 4 本部所在地 キャンプ・ファウアール(シリア)
- 5 ミッション長 アニタ・アスマ少将 (ガーナ)
(軍司令官)
- 6 活 動 期 限 2026年6月30日
(安保理決議第2811号(2025年))
- 7 予 算 約7,010万ドル(2025年7月～2026年6月)
- 8 経 緯



- (1) イスラエル建国以来続いたイスラエルとシリアの緊張関係は、1973年10月の第4次中東戦争以降ますます不安定なものとなり、1974年5月に両国間の兵力引き離し協定が締結され、兵力引き離し地帯とその両側の兵力・装備制限地域、及びそれを監督する国連監視団が設置された。
- (2) 国連安保理は決議第350号を採択し、停戦監視及び両軍の兵力引き離し等に関する合意の履行状況の監視を任務とする国連兵力引き離し監視隊(UNDOF)を設立。兵力引き離しは1974年6月27日をもって完了したが、その後も同地域の緊張により現在も任務継続中。
- (3) 日本は、1996年2月から輸送隊及び司令部要員を派遣、2013年1月をもって活動を終了。
- (4) 2011年以降のシリア危機に伴い情勢は悪化。要員の安全リスクの高まりにより、日本、クロアチア、オーストリアが撤収を決定。2014年8月には、武装勢力による要員拘束事案が発生し、シリア側から要員が一時退避した(同年9月、全員が無事解放)。
- (5) 2024年12月にシリアのアサド政権が崩壊すると、イスラエルは国軍(IDF)を兵力引き離し地帯(AOS)に展開。UNDOF は活動継続中なるも、IDFの軍事活動により、AOSにおける状況は流動的。
- (6) 2025年12月、安保理は決議案第2811号を採択し、UNDOF のマンデートを2026年6月まで延長することを決定。
- 9 任務(決議第350号)
 - (1) イスラエルとシリアの間の停戦の維持
 - (2) イスラエル軍・シリア軍双方の兵力引き離し等の監視
 - (3) 1974年5月の合意に規定された兵力引き離し地帯の監視
- 10 派遣規模 (※2025年10月31日時点) (詳細: [国連 DPO 要員派遣国統計](#))
 - (1) 軍事・警察要員 (計1,177名) (軍事部隊要員:1,116名、司令部要員:61名)
 - (2) 文民要員 (計124名) (国際文民要員:43名、現地文民要員:81名)
 - (3) 国連ボランティア(計0名)
 - (4) 要員派遣国 : ネパール、ウルグアイ、インド、フィジー、カザフスタンなどの計13か国
- 11 我が国の要員派遣(1996年2月～2013年1月)
 - (1) 司令部要員 延べ38名 (2名×13回、3名×4回)
 - (2) 後方支援大隊要員 延べ1,463名 (43名×33回、44名×1回)
- 12 犠牲者数 (※2025年11月30日時点)

59名(事故:20名、病気:18名、悪意ある行為:8名、その他:13名)

(参照:[国連 DPO UNDOF ウェブサイト](#))